

自ら学び 自ら鍛える

Team 北中

令和2年度 学校報 第14号 令和2年9月16日

発行責任者：瑞浪北中学校校長

担当者：瑞浪北中学校教頭



<合言葉> クリエイティブ瑞浪北中 2nd year
—学校の特長を確かなものにする年—

できていたことができなくなるということ

校長

新型コロナウイルス、熱中症、台風と、この時期は生徒たちの命や身体を脅かすものが、手ぐすね引いて待っています。一人もその犠牲にはいけないと、感染症対策、熱中症指数、気象情報に毎日敏感にならざるをえません。学校では、生徒の健康状態については当然ですが、今年度はこれまで気を遣わなくてもよい部分に職員が心をすり減らし過ぎてはいないかと私は心配しています。

全職員による登校時の見届けと健康チェック、日常の手洗いの徹底、下校後の消毒作業が功を奏し、生徒が元気に学校生活を送られるのはとても有り難いことです。しかし今年度は、昨年度と状況が違うことは事実です。その中で、昨年度できていたことができなくなっている生徒の姿があるようです。今日はその点について書こうと思います。

できなかったことができるようになるということは喜ばしいことです。生徒の成長であり、教育の成果であると言えます。生徒たちは試行錯誤を繰り返しながら、毎日少しずつ成長していきます。逆に、できていたことができなくなるということはどうでしょうか。大人であれば、それは老化ですね。「昔はできていたんだけどなあ」などと、今でもできるような気になって言い訳しますよね。でも、生徒たちは違います。私たち教師は、それが思春期真っ只中の生徒たちの一つのサインだと考えています。

心配していることを具体的に挙げましょう。最近、登校時刻が遅くなっている生徒が増えてきたようです。現在、感染症対策の朝の健康チェックや、担任による登校生徒の見届けのために、校舎内が慌ただしい状況です。したがって、活動の始まりに緊張感がなく、それが登校時刻の遅さを助長している感じがします。

今年度も朝8時から10分間の朝読書を開始しています。そして、その後朝の会へと移行します。したがって、朝8時に学校に到着しては、朝読書には間に合いません。健康チェックを受け、手を消毒し、教室に入って荷物の整理をして読書を始めるまでに10分かかると計算し、7時50分登校を学校は指導しています。お子さんはいかがでしょう。

夜遅くまで起きていて、朝起きてくるのが遅くなった。学校の準備が前夜にできなくなり、翌朝に取り組むようになった。起きるのが遅いので、朝食をしっかりと摂らなくなった。慌ただしく出かけるので、交わす言葉の数が少なくなった。遅れたので「乗せて行って」と頼むことが多くなった。中には、朝YOU TUBEなどの動画を見るようになり、家を出るのが遅くなったということもあるようです。

徒歩通学与自転車通学の生徒が、気になる対象になることが多いでしょう。バス通学の生徒は、バス停でのバスの到着時刻がありますので家でんびりすることができないと思われませんが、駆け込み乗車や乗り遅れ、起きてからバス停につくまでの余裕のなさがないか、今一度確かめていただきたいと思います。登校のピークは7時40分頃から50分頃です。バスも順調に走行できれば、50分前後に到着します。55分を過ぎて学校に到着する生徒は、間に合っても余裕はないと思われ。

ゆとりや余裕のないところに、熟慮やよい結果は生まれにくいと言えます。「これをやってみよう」「こうや

っていよう」という挑戦や工夫は、精神的な余裕があるときに生まれるような気がします。言い換えると、主体性が発揮できるのは、精神的物理的なゆとりや余裕があるときだと言えるでしょう。それらは与えられるものではなく、自分で生み出すものではないでしょうか。

もう一つ心配しているのは、感染防止策ができなくなっている生徒がいるということです。とりわけ、登下校中の姿にそれがみられます。

以前は、北中の生徒を目にした地域の方から、「北中の生徒はマスクもしないで話しながら歩いているが大丈夫か」と心配する声をいただきました。最近では、学校の近くにくるとマスクをつける生徒が目立つようになりました。通学バスの中では、大きな声で会話をしている生徒もいるようです。

「喉元^{のどもと}過ぎれば熱さ^{あま}忘れる」という言葉があるように、生徒たちは感染のピークが過ぎたようにとらえ、安心している部分があるようです。しかし、まだまだ安心はできません。目に見えないウイルス、症状のない感染者がいる限り、いつまたウイルスが鎌首^{かみくび}を持ち上げるかわからないからです。ぜひ、ご家庭で、登校時のお子さんのマスク着用状況を確認していただきたいと思います。

できていたことができなくなっているのは、生徒の場合、思春期ならではの特徴だと言えるでしょう。何が大切で、今自分はどういうことに踏ん張らなければならないかを、学校と家庭が連携して生徒たちに確実に教えていきたいと思っています。よろしく願いいたします。



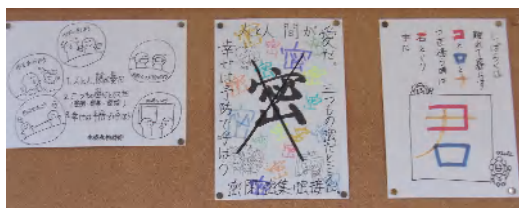
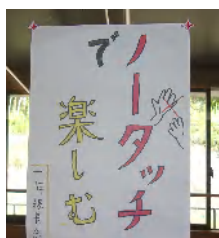
リラックスして下校する生徒たち

感染予防徹底のために 働きかけるリーダー。その頑張りに応えたい！

感染予防の意識を高めようと、学校でもリーダーたちが知恵を絞り始めました。

1年生の級長会では、休み時間に「密」が発生しやすい学年の実態を受け、「ノータッチで楽しむ」を合言葉に活動しています。左のような掲示物を作成して教室入口に貼るとともに、各学級の黒板にはこの合言葉が大きく書かれています。

また現在、各学級には生徒会執行部の作成した、感染予防を呼びかける三種類のポスター（左下参照）が掲示してあります。



リーダーたちは知恵を出し合い仲間に働きかけています。この働きかけに積極的に応えていくことは、感染予防とともに仲間同士の絆や学校・学年・学級の凝集力にもつながります。これらリーダーの頑張りに全生徒が応えていくこと、それが今後の課題です。

9月15日。授業前の2B教室では、級長のH・Wさんが教卓の前に立ち、学級の様子を見守っていました。どうやら彼は、授業開始のチャイムに学級の全員が間に合うよう、声をかけるために見守っていたようです。そんな彼がふとこんな呼びかけをしました。「おーい、密やぞーっ」。新型コロナウイルス感染症に関わる呼びかけが自然と口から出ることからは、彼が「感染予防」の意識を強く持ち続けていることがうかがえます。これもまた、コロナ禍に育んだ主体性のひとつです。